

東濃農林事務所の普及活動状況

令和5年12月

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新たな担い手 新規就農・経営改善計画作成への取組状況

農業普及課では、新規の就農や経営改善計画への認定に向け、関係機関と連携・情報共有しながら、個別相談活動を行っている。

本年度は、これまでに8件の新規就農相談を行ったが、面談により対象者の農業に対する経験や考え方など聞き取ったうえで、必要となる支援制度を説明している。また、就農につながる可能性が高い案件については、農地の確保、経営試算、就農計画及び補助事業の計画づくり等踏み込んだ支援を行っており、現在、2名が本年度中の就農計画認定を目指しているところである。

新規の経営改善計画作成についても、同様、関係機関と連携した面談により、計画認定の目的や経営状況を把握しつつ、事業導入や資金活用の情報提供を行うことで、具体の計画作成を支援してきた。結果、4経営体が新規認定を受けることとなった。

今後も、最初の入口である就農相談等を丁寧に行うことで、担い手の育成・確保につなげていく。



【就農相談の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■地産地消 地場産物の学校給食導入に向けて

多治見市では、「たじっ子給食の日」として、市内で収穫された食材を中心とした献立の日を設けることで、子どもたちの食と農に対する理解促進を図っている。

今回は、就農支援の一環として、市内の新規就農者が生産した農産物を、学校給食用食材として活用する方策について話しあった。

既に、トマトや大豆などの利用があり、品目の拡大が求められていたところ、新規就農者が栽培した比較的暑さに強い「にこまる」という品種の米を、2月頃に出荷いただくこととなった。

今後も、日本一暑い多治見市において、品質が良くおいしい米を学校給食に安定的に供給するため、技術支援を継続していく。



【市と農業者との打合せの様子】

■直売所 「みずなみ野菜づくり塾」閉講

J Aとうとは、農産物直売所などへの出荷増を目指した「みずなみ野菜づくり塾」を5月に開講、農業普及課も講師として野菜づくりを応援してきたが、12月14日が最後の講座となった。

閉校式では、主催者であるJ Aとうと及び東濃農林事務所担当課長から受講生に対し、猛暑の中参加いただいたことへの感謝の意や、今後の直売所出荷について期待したい、との挨拶があった。

現在、直売所「きなあつ瑞浪」に野菜を出荷する会員は、約200名であるが、高齢者が多く、将来にわたり直売所を維持発展していくには、新たな出荷者の確保が必要であるため、今後も野菜づくりへの支援を継続していく。



【収穫作業の様子】